

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		むぎのこスクール (ライラック)		公表日		2026年 3月 25日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		グループを分けるなど、発達に合った活動を提供できるように工夫していった。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		○		有給等で職員が数が減る際は、むぎのこスクール全体で職員配置を行い安全を守れた		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。			○	障がいの重い子どもには反響音など刺激が強いこともあったため別の建物で活動することを行った	反響音や視覚的な刺激が多い。場所を変えたり、外活動を増やすなど子どもが落ち着けるように工夫していく。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		遊具庫などは定期的に整理整頓を行っていった。また、棚の購入など物品の購入も行き環境整備を行った。	パートさん等、職員全体で環境整備を毎日行えるように構造化していく。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		間仕切りがあり、構造化を行っていった。また個室を用意し、大人と一緒にいるなどしながら安全面に配慮して使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル (目標設定と振り返り) に、広く職員が参画しているか。	○		クラス会議でよく話し合い、むぎのこスクール全体でも共有しながら行っていった。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様からの改善点等のお話しがあった際にはクラス、上司、むぎのこスクール全体で共有していき、対応できた		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		クラス会議や、共通メール、情報共有アプリ等を活用して、ボトムアップに努め、業務改善に繋がられた。	風通しのよい職場作りを心掛け、意見を拾っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修委員会を設けて、研修を年間スケジュールに取り組み、実施していった。また外部研修も積極的に参加していった。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		保護者様、お子様の意見表明権を尊重し、よくお話を聞いて支援計画を作成、チームで実施できた。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		クラス会議等で共有できるようにしていった。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		法人全体で共通のツールを作り上げ、アセスメント等を行えている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○				

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもたちからの意見なども取り入れながら活動内容を決めて行った。 スキーなど行事を多く取り入れられた	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日の打ち合わせを通して、バディや活動のグループをチームで共有、相談し、職員も安心して療育に入れるように配慮していった。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		出来ない時は、共通メール等を通して共有していった。	送迎業務や個別の対応等により、職員によって業務が異なるため、スケジュール調整、構造化していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		グループを分けたり、活動を複数用意したりと、子どもが選択できるよう工夫していった。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		不登校児童への支援として、学校行事への参加の際には学校とよく連携、相談して本人、保護者様の意向を尊重しながら支援できた	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		グループカウンセリング、親子発達支援等の参加を促していった。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		共通のアセスメントシートを使用して面談等を通してニーズを把握できた。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			法人のホームページに行事等のブログ等の発信を定期的に行った。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			守秘義務を職員間で周知徹底した。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			保護者との日々のコミュニケーション、面談をとして情報共有を丁寧に行っていた。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			町内会への参画や、ご近所への挨拶、除雪等を行っていた。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			月1回避難訓練や、年に1度地域の小学校への避難も取り組んでいた。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			安全のルールにあるアレルギー対応マニュアルの周知徹底と、内部研修を行い参加していた。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			法人でBCP研修等、全職員が受講していた。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			安全のルールをチームで周知徹底していた。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			クラス会議での安全のルールの読み合わせ、助けを求める練習、研修の他に、虐待防止委員会からのニュースの発信等を行った
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			個別支援計画に掲載して同意を得ている。	